

しらかべ



創立 100 周年ロゴマーク

2016年5月12日 人権・同和教育部発行

若葉が一雨ごとに色を濃くし、生命のいぶきを感じる今日この頃、皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

4月14日以降に発生した、九州各地の震災で被災され、お亡くなりになられた方がた、今も不安を抱えて、避難されておられる皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。生徒から何かできることはないかという動きがあり、募金活動も行われました。集まった義援金は、坂出市で取りまとめられて届けられます。

私たちが「普通の偉大さ」を知るのは有事の際のみと言われていています。日々が平凡に過ぎる、そして勉強や部活動に打ち込める環境があることは偉大なことです。それどころではない普通を取り上げられた多くの皆さまには、本当に申し訳ないことだと思います。しかし、私たちは、この取り組める命題に感謝して、今、やることの意義を胸に刻み、一日一日を、その瞬間を大切にしなければいけません。

さて、プレハブ生活2年目。夏はかなり暑く、隣の教室の声もかなり聞こえてきますが、残り1年です。そんなプレハブ校舎でさまざまなことが不便ですが、音楽棟入り口に次の言葉が書かれていました。「今作られている校舎を見よ！穴を掘ったり組み立てたりしながら、素晴らしい校舎は作られているのだ。こんな風に君たちは土台作りをしなくてはならない。それは、きっと大変なことだ。しかしそれと乗り越えれば歴史に残る素晴らしい音楽ができることであろう」この言葉に、物事を多面的に見る大切さに気づかされました。たしかに、土台がしっかりしていなければいけません。生徒の内面的な成長についても同じことが言えます。勉強や部活動において、苦しくても、踏ん張って、そして乗り越えてほしいです。大きな目標を達成するには小さなことの積み重ねが何より大事ですね…。

新入生は毎日の生活に慣れ、2・3年生は、クラス替えから一か月が経ち、落ち着いて学校生活を送っています。4月28日には遠足が実施され、クラスの和が深まりました。先日の体育祭では、みんなが自分の持ち味を十分に発揮し、クラスが団結する姿を見ることができました。また、5月20日から25日まで1学期中間考査があります。一生懸命勉強して、学習面においてもいいスタートを切ってもらいたいと思います。中間考査が終われば、6月4日～6日(サッカーは5月28日から)には県高校総体があります。高校総体は、多くの競技者にとって、集大成であり、高校3年間の部活動は、この日のためにあると言っても過言ではありません。これまでの努力の成果が発揮できるように頑張ってもらいたいものです。

本校では、校長のリーダーシップのもと、「あいさつ・掃除・服装・時間(あそふじ)」を通しての人づくりに取り組んでいます。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。清掃を一生懸命することによって、何に対しても真面目に取り組む姿勢が育ちます。これらのことは、学習面だけでなく、生活面、部活動においても成果として現れてくると信じています。

1 人権・同和教育基本方針(めざす生徒像)

- (1) 豊かな人権感覚と人権に対する正しい理解・認識及び人権を尊重する意欲・態度を身につけた生徒
- (2) よりよい人間関係を自ら構築できる生徒

2 教育的働きかけ

- (1) 豊かな人権感覚と人権に対する正しい理解・認識及び人権を尊重する意欲・態度を身につけた生徒を育成するために

① 人権・同和教育 LHR の充実を図る。

- ・さまざまな人権課題に対する理解と認識を深め、人権尊重の意欲と態度を育てる。
- ・講演会を実施したり、校外学習会の成果を活用したりするなど、差別や人権侵害の現実をふまえた授業を実践する。

② 人権を意識した授業や学級経営等を行う。

- ・人権に関わる内容を積極的に取り入れた授業を行う。また、学級経営上のさまざまな場面で、人権の大切さに気づかせる教育活動を積極的に行う。

③ 「人権週間」を積極的に活用し、人権意識の高揚に努める。

- (2) よりよい人間関係を自ら構築できる生徒を育成するために

① 生徒の自尊感情を育てる。

- ・教師が一人ひとりの生徒に寄り添うことで自分自身の大切さを認識させ、人権を尊重する態度を身につけさせる。

② 生徒の人権感覚を育成する。

- ・常に相手への思いやりの気持ちをもつように、また、相手の立場に立った言動がとれるように、あらゆる場面を通じて指導する。
- ・人権に関する学習会、人権通信「しらかべ」、人権映画鑑賞会や集会などを通じて、生徒の人権感覚を高める。

- (3) 人権・同和教育 LHR について

学年	実施月	主 題	配当時間 (時間)	学 習 目 標
1 年	6 月	「人権について考える」	1	さまざまな差別の現状を学習することで、差別とは「人が人を大切にしないこと」であることを理解させるとともに、差別解消に立ち向かう態度を身につけさせる。 ○大島青松園訪問学習会 (8/25) ○盲学校の先生方による講演会 (1/11) ○啓発用DVDを活用
	7・9月	「さまざまな差別Ⅰ ～ハンセン病回復者をとりまく問題～」	2	
	1 月	「さまざまな差別Ⅱ ～障がい者をとりまく問題～」	2	
	1 月	「インターネットと人権」	1	
2 年	6 月	「同和問題とは」	1	同和問題の歴史を学び、その中で同和問題が抱える不合理性を正しく理解させることで、自分たちの社会の問題として捉えさせる。 ○人権啓発学習会 (7月末)
	10 月	「部落の歴史Ⅰ ～部落の起源から水平社の設立～」	1	
	11 月	人権講演会「ぬくもりを感じて」	2	

	1 月	「部落の歴史Ⅱ ～同和行政と現代の課題～」	2	○『高校生の同和問題学習』や関連DVDを 活用 ○中倉茂樹氏による講演会（11/9）
3 年	6 月	「差別解消に向けてⅠ ～就職差別を事例に～」	1	事例学習を通して同和問題の現実を学び、 差別解消に向けての生き方と考え方を身に つけさせる。 ○結婚差別聞き取り学習会（夏休み中）
	10 月	「差別解消に向けてⅡ ～結婚差別を事例に～」	2	

3 問題事案への対応（※情報の収集を集中的に行い、即対応する。）

- ・現場にいる職員が、直ちに、その場で間違いを指摘する。
- ・担任、教頭および人権・同和教育主任へ早急に事実の報告を行う。
- ・担任は差別を受けた生徒を十分にケアする。
- ・問題事案につながる恐れのある「気になること」は、小さいことでも日常的に把握できる体制を構築しておく。

人権・同和教育は人権・同和教育 LHR の中だけで実践すべきものではありません。授業や学校行事、部活動などすべての教育活動を通じて行うべきものです。そして、生徒の成長をサポートするためには、学校、保護者、地域の連携が不可欠だと考えますので、今後とも、本校の人権・同和教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

4 各種研修会への参加計画(PTA 関連)

研修会名（開催地）	開催時期	参加人数
① 四国地区人権教育研究大会（高知県）	7/7・8	5名（含PTA2名）
② 人権を守る坂出・綾歌ブロック集会（坂出市）	7月下旬	6名
③ 人権啓発講演会（坂出市）	8月上旬	2名
④ 香川県人権・同和教育研究大会	10/20	6名（含PTA2名）
⑤ 私の考えを語る会（坂出市）	11月上旬	3名
⑥ 全国人権・同和教育研究大会（熊本県）	11/26・27	3名
⑦ 部落解放講演会（高松市）	12月上旬	2名
⑧ 人権・同和教育指導者研修会（高松市）	1/19	3名（含PTA1名）

①四人研大会、⑥全人教研究大会において、本校の人権・同和教育に関する取り組みを報告します。

5 おわりに

平泳ぎでアテネ、北京五輪2大会連続金メダルの北島康介さんが、現役を引退しました。「幸せな選手生活を送れた。平井先生がいてくれたからこそ、五輪で金メダルを取れた。応援してくれた仲間のおかげで、ここまでできた。感謝しかない」と、平井伯昌コーチら周囲への感謝を述べました。2人がタッグを組んで20年。その間、数え切れないほどの喜びと苦しみを共有してきたことでしょう。選手と指導者という関係だけでなく、人間同士の深い信頼関係が成り立ち、お互いが高め合っています。平井コーチは「昔は大切な教え子だったけど、いつのまにか友人みたいに何でも話せる仲になっている」と笑ったのが印象的でした。

平泳ぎは若手がどんどん伸びてきているし、こんなにも高いレベルの中で最後に自分は戦えた。そういう後輩たちへの感謝の気持ちも（一礼には）含まれています。選手として最後は不本意ですけど、これだけたくさんの人に見てもらって、自分のパフォーマンスをここまで高いレベルで出せたということに自信を持って、次のステージに進みたいと思います。決勝が始まる前、平井先生からは『よし、行ってこい』という言葉をかけられました。本当にいつもと変わらず送り出してくれる先生がいたから頑張れたのだと思います。中学生のときから指導を受けていたし、弱くなった自分を見て、もう一度自信と強さを取り戻させようとしてくれた先生には感謝の気持ちでいっぱいです」（北島康介さん）

「『お疲れさん』としか言えなかったです。日本のトップ、世界のトップとして、みんなが憧れ、尊敬する選手になってくれたし、本当にすごい選手だったと思います。速くて強い、人の面倒見も良くて、練習のときは自分が一番苦しいはずなのに、一番明るく練習をやってくれた。中学のときから、『もし世界のトップになったら、誰からも好かれる選手になってほしい』という話をしていたので、そういう選手になってくれたのがうれしいですね。感無量です」（平井伯昌コーチ）